

刑法総論B

科目ナンバリング CRL-104
必修 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

刑法は、犯罪と刑罰に関するルールです。1年次に学修する刑法総論では、すべての犯罪に共通する要素(犯罪の成立要件)を分析し、「およそ犯罪とは何か」を考えます。一見、抽象的に見える犯罪論も、具体的な事例を用いてイメージすることで、確かな理解へと繋がります。1年間を通じて、刑法総論の主要な論点と向き合い、法解釈の技術を学ぶとともに、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身に付けます。

2. 授業の到達目標

- ①刑法総論の主要な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、具体的に説明できること。
- ②法解釈の技術を学び、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身に付けること。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価します。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%です。授業への貢献度は、勉学への意欲や授業態度等によって総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下のテキストをお勧めします。本には相性があるので、この中から自分に合った本を選んでください。

大塚裕史・十河太郎ほか 『基本刑法1・総論(第2版)(2016)』 日本評論社

井田良 『入門刑法学・総論(第2版)(2018)』 有斐閣

井田良 『講義刑法学・総論(第2版)(2018)』 有斐閣

井田良・佐藤拓磨 『よくわかる刑法(第3版)(2018)』 ミネルヴァ書房

山口厚 『刑法総論(第3版)(2016)』 有斐閣

参考文献

井田良 『基礎から学ぶ刑事法(第6版)(2017)』 有斐閣

西田典之・山口厚ほか 『判例刑法・総論(第7版)(2018)』 有斐閣

十河太郎・豊田兼彦ほか 『刑法総論判例50!(2016)』 有斐閣

山口厚・佐伯仁志編 『刑法判例百選・総論(第7版)(2014)』 有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返ししながら、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用してください。それでもわからない場合は、友人と議論したり、教員に質問したりすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションー春期の復習ー
- 【第2回】 故意とは何か
- 【第3回】 錯誤論①ー具体的事実の錯誤ー
- 【第4回】 錯誤論②ー抽象的事実の錯誤ー
- 【第5回】 過失とは何か
- 【第6回】 責任能力／原因において自由な行為／違法性の意識
- 【第7回】 正当化事由の錯誤
- 【第8回】 未遂犯ー実行の着手ー
- 【第9回】 不能犯・中止犯
- 【第10回】 演習問題／DVD
- 【第11回】 共犯論①ー正犯と共犯の区別／間接正犯ー
- 【第12回】 共犯論②ー共同正犯／教唆犯・幫助犯ー
- 【第13回】 共犯論③ー共犯の諸問題ー
- 【第14回】 罪数論
- 【第15回】 秋期のまとめと試験